

誰もが働きやすい職場へ

INTERVIEW 01



「救助隊という仕事に誇り」

私たちは、市民の皆様の安心と安全を守るため人命救助に対する知識や技術を日々研さんしています。救助隊が活動する現場は1つとして同じものではなく、時には人命を左右する判断をしなければなりません。極めて困難な状況下でもチーム一丸となって最前線で活動する救助隊という「仕事」に誇りを感じています。また、日頃の訓練で培ったことが災害現場で活かされた時には、特に大きな充実感を感じます。信頼できるたくさんの仲間と仕事ができることを楽しみにしています。

氏 名 : 船山 光一郎
所 属 : 川崎消防署警防課 特別救助隊
入 庁 : 平成24年
主 な 資 格 : 大型自動車免許、玉掛技能者
大型特殊自動車運転免許、潜水士など



資格を活かしてはしご車の運転や操作も行う

環境にも優しい職場作りを目指しています

災害現場で役目を終えた防火衣やホースなどの消防装備品をアップサイクル（活用）してゴミを削減し、脱炭素化とSDG sの達成へつなげていきます。



現場での役目を終えた
防火衣・ヘルメット・ホース



防火衣はエプロンへ



ホースは鉢カバーへ



ヘルメットは
ハンギングバスケットへ



消防局1階広報コーナー
(令和6年1月～3月まで)

INTERVIEW 02

「組織に貢献できる職員へ」

消防という世界に入ってから、大学で取得した救急救命士の資格を活かし救急隊として現場で活動していました。現場での活動は充実していましたが、自身の出産を機に毎日勤務を経験し現在は消防署で庶務係の仕事に従事しています。川崎市消防局では、自分の希望や家庭環境等に合わせて様々な仕事を幅広く経験することができます。様々な業務を経験し知識を深め、より組織に貢献できる職員になれるよう日々仕事に取り組んでいます。



氏 名 : 福田 遥
所 属 : 多摩消防署予防課庶務係
入 庁 : 平成28年

INTERVIEW 03

「一人でも多くの命を救うために」

消防学校を卒業してからは救急隊として現場で活動しています。現場での経験は浅く、まだまだ勉強は必要ですが、私はこの救急救命士という仕事にやりがいと使命感を感じています。活動中は市民の皆様に寄り添った活動をするを常に心がけており、一人でも多くの命を救いたいという気持ちで活動しています。今はまだ、隊員として隊長の指示を受けることが多いのですが、将来的には救急隊長として活躍できるように、これからも上司や同僚からの指導に耳を傾け、知識や経験を増やしながらか成長していきたいと思っています。



氏 名 : 佐藤 秀斗
所 属 : 高津消防署警防課 救急隊
入 庁 : 令和2年

INTERVIEW 04

「憧れの職業」

消防署の近くで生まれ育った私は、幼少期から訓練で汗を流している消防士の姿を目の当たりにして憧れを抱き、将来の進路を考えたときにこの仕事しかないと思いました。最初は、過酷な現場活動に耐えられるか不安でしたが、みんなと一緒に消防訓練や体力錬成に取り組み、汗を流しながら少しずつ自信をつけています。とても緊張感のある仕事ですが、努力している姿は必ず誰かが見ていて認めてくれる、やりがいのある仕事です。



氏 名 : 松井 結衣
所 属 : 川崎消防署警防課 消防隊
入 庁 : 令和4年